

欠食児童

社会的な意味をもった難しい言葉を、ビッグワードというらしいが、私にとって、最初のビッグワードは、小学校1年の時に覚えた、「ケッショクジドウ」という言葉であった。

欠食児童と書くこの日本語は、もはや死語である。昭和初期の頃、冷害による不作のため、東北地方の学童の多くが、弁当なしで登校したことと説明されているが、暗い社会的背景を抜きにしては、この言葉は理解できない。

色々の物語りはあるが、その頃も、現在と同じような古米処理の考案工夫が盛んに行なわれていたことを挙げておく。単純に、飢饉だと思ってもらっては困るのである。

ワルソーゲッターにおけるユダヤ人の子供たち、ピアフラにおけるアフリカの子供たちの写真は、私どもの胸を打ったが、同時にその背景にある社会的意味を理解する必要がある。

昨年のも連における穀物不作を契機として、食糧を武器とする思想が公然と語られているが、世界のどこかに、また欠食児童を作ることのないように願いたいものである。

ともあれ、昭和も55年になって考えてみると、10a当たりの米の収穫が、300 kgから500 kgにふえたのも、その後に行った戦争も、戦後の社会的変動も、各界における技術的進歩も、そして世界第2のGNPを誇る工業国となり、それが行き過ぎて、子供を過保護にして困っているのも、原点は欠食児童に対する苦い反省と、これを死語にするための努力ではなかったか、と思う次第である。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 石本信夫〕
〔保土谷化学工業株式会社 農業部長〕

目次

(第14巻第2号)

除草剤の世界市場と研究開発の現況……2

＜全農農業技術センター 永江祐治＞

1. 世界の除草剤市場……2

2. 雑草による作物被害と除草剤
の経済効果……6

3. 除草剤の研究開発……8

雑草研究の新しい視点……11

＜東北大学農学研究所 菅 洋＞

1. アレロパシイの視点から……11

2. 化学的生態学の視点から……13

3. 種生態学の視点から……15

水田利用再編対策の実施状況と昭和

55年度実施方針……17

＜農林水産省農蚕企画室 門谷廣茂＞

1. 54年度の推進経過……17

2. 54年度の転作等の実施状況……18

3. 55年度対策の方向……22

外国文献抄録……25

「化学農業研究における未開拓の

領域」

新登録除草剤一覧……27

新登録生育調節剤一覧……28

表紙の写真は、ケフシグロの種子表皮細胞を走査電子顕微鏡で撮影したもの、星状突起型、550倍。

〔写真提供者：笠原安夫氏〕